

2.2 総合治水対策の仕組みと現状・効果

- 2.2.1. 総合治水対策の仕組み
- 2.2.2. 総合治水対策のイメージ
- 2.2.3. 総合治水対策における流域対策の考え方
- 2.2.4. 新総合治水対策における新しい流域対策の考え方
- 2.2.5. 流域総合治水対策協議会の一例
- 2.2.6. 総合治水対策の体系・施策
- 2.2.7. 総合治水対策の進捗状況
- 2.2.8. 過去に大水害の生じたのと同程度の降雨規模に対して、総合治水対策の進捗により近年では水害が著しく減少

2.2.1. 総合治水対策の仕組み

①流域総合治水対策協議会の設置

総合治水対策特定河川の流域ごとに、地方建設局、都道府県及び市町村の河川担当部局、都市・住宅・土地担当部局等の関係部局からなる流域総合治水対策協議会を設置し、当該流域に係る総合治水対策について協議する。

②流域整備計画の策定

流域総合治水対策協議会は、流域の特性に応じて総合治水対策の具体的施策等を検討、選択し、「流域整備計画」として策定する。

流域整備計画の考え方

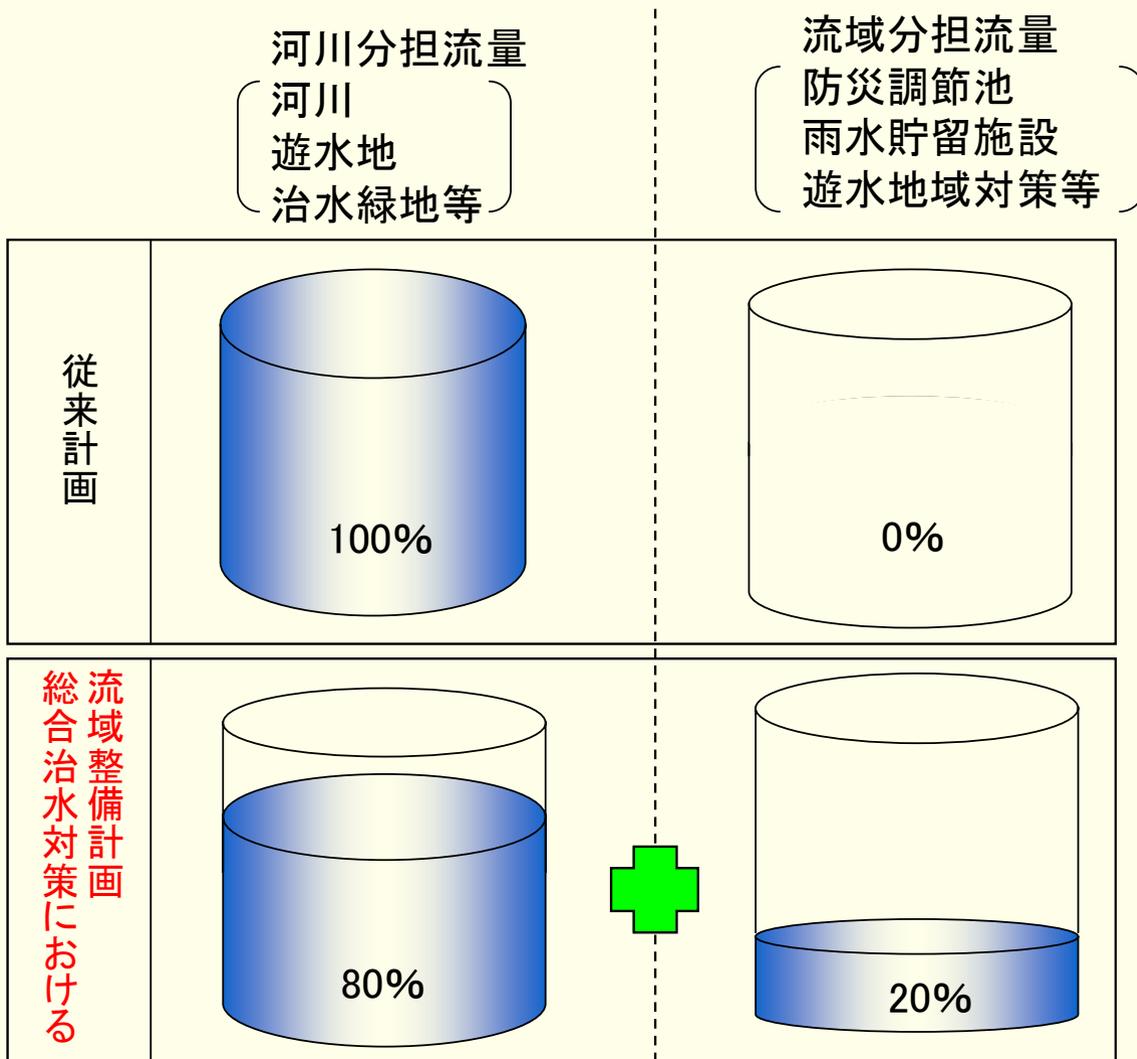
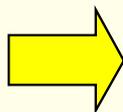
- ▶ 流域の特性に応じて総合治水対策の具体的施策を計画
- ▶ 流域及び河道の流量分担計画に基づき、各対策の整備目標、対策内容を計画

流域整備計画

流域整備の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 保水、遊水、低地地域の区分 ● 流域開発の想定 ● 治水施設整備計画、流域対策の基本方針 ● 河川、流域の流量分担計画
河川の整備計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 治水計画 (整備目標、事業内容等)
地域毎の整備計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 保水機能保全対策(防災調整地、雨水貯留施設等) ● 遊水機能保全対策(盛土抑制等) ● 低地地域保全対策(内水排除施設等)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 被害軽減対策(警報避難、浸水予想区域図等)

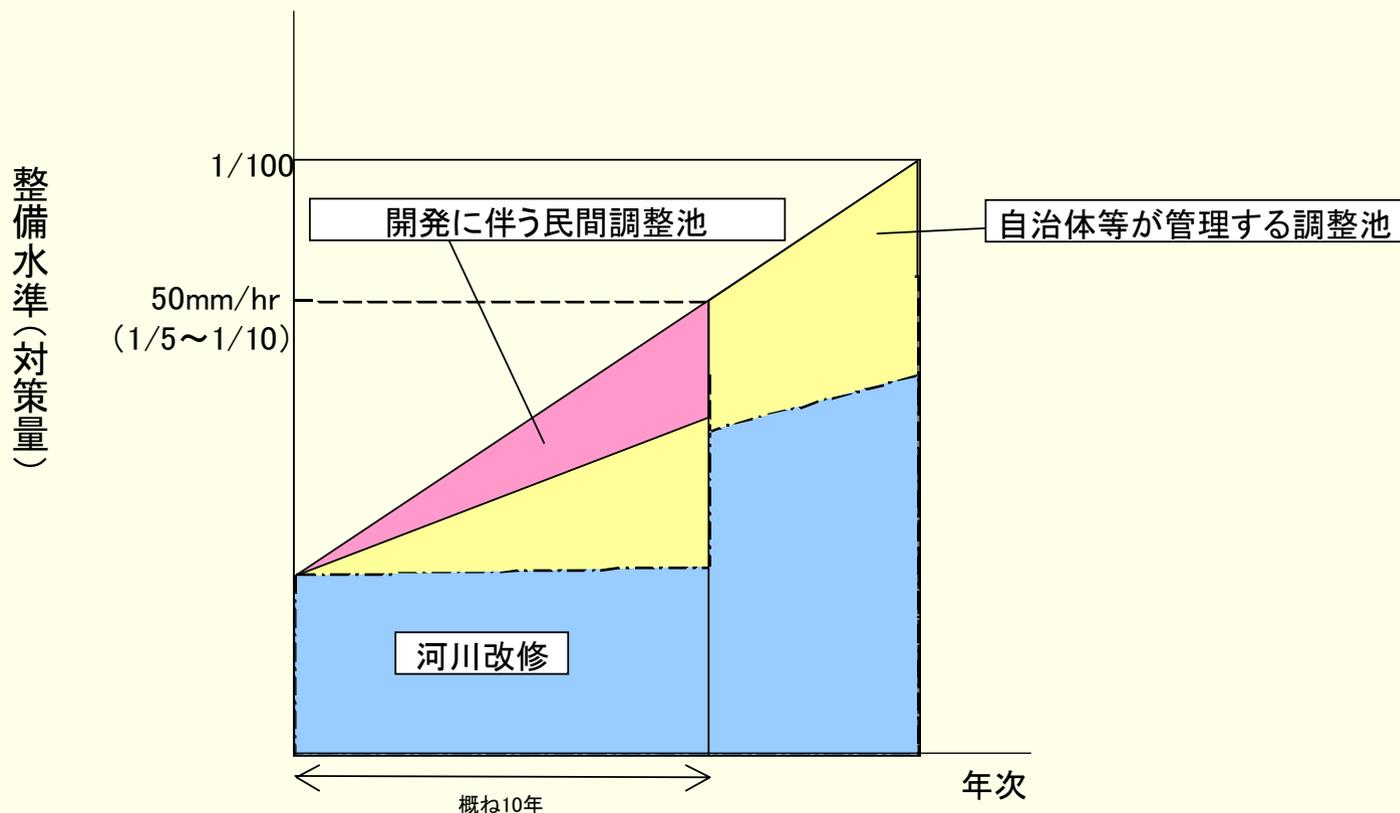
流域整備計画における流量分担計画

時間雨量
50mm相当
(5年から10年に1回の降雨)



2.2.3. 総合治水対策における流域対策の考え方

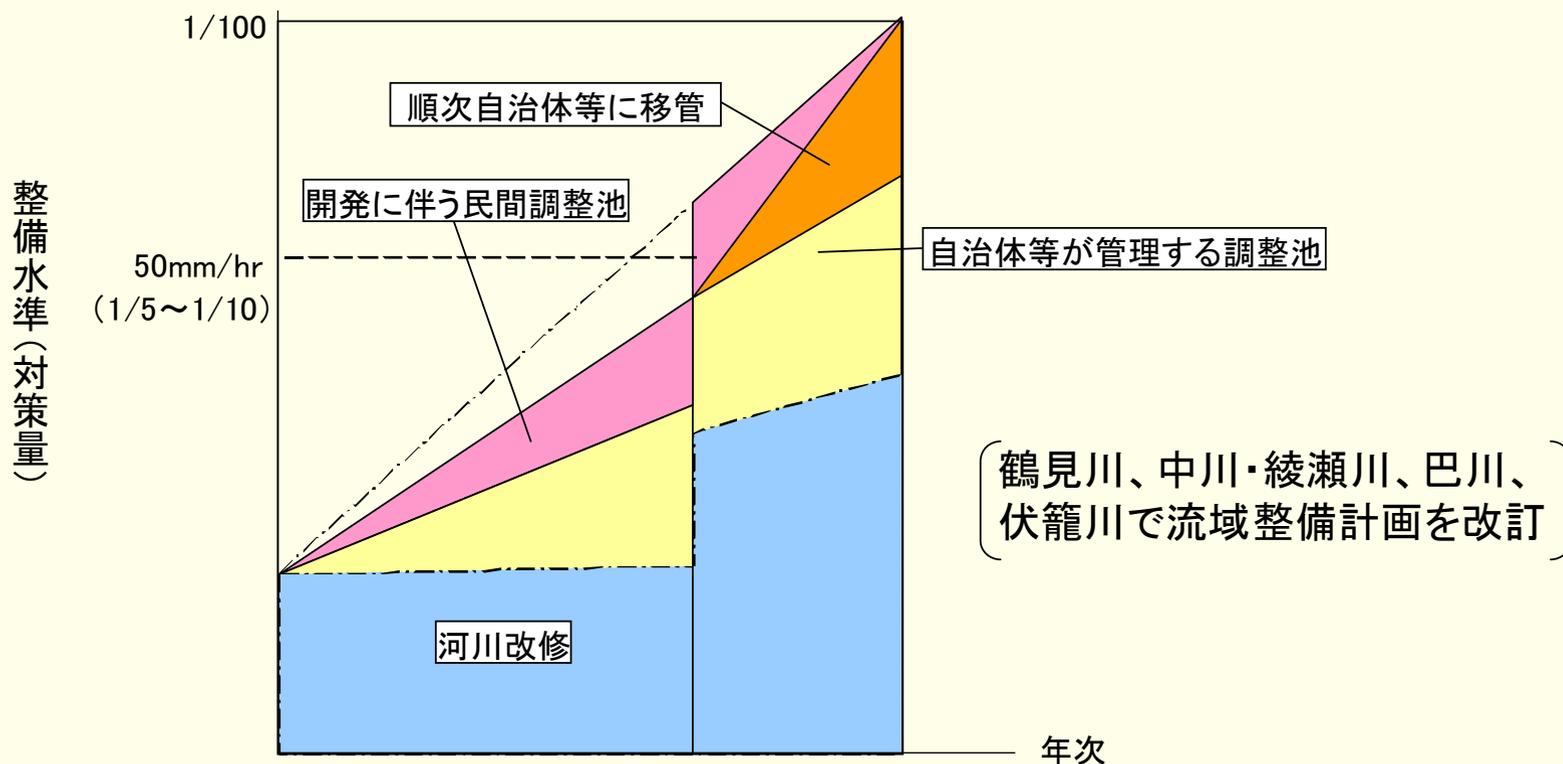
当面の目標(50mm/h)に対する河川、自治体等が管理する貯留施設整備を概ね10カ年を目標に進め、その間、新規開発に対しては民間調整池を設置してもらい治水安全度の低下を回避する。



2.2.4. 新総合治水対策における新しい流域対策の考え方

「総合的な治水対策の実施方策についての提言」(S63、河川審議会)を受けて、改訂された流域整備計画では、流域対策の考え方が変わった。

- ▶流域の治水水準を効率的に上げるための施設
- ▶流域対策施設を長期計画の中に位置付け。
- ▶それに伴い、民間調整池の自治体等への移管を順次進める。



2.2.5. 流域総合治水対策協議会の一例

鶴見川流域総合治水対策協議会・幹事会の構成

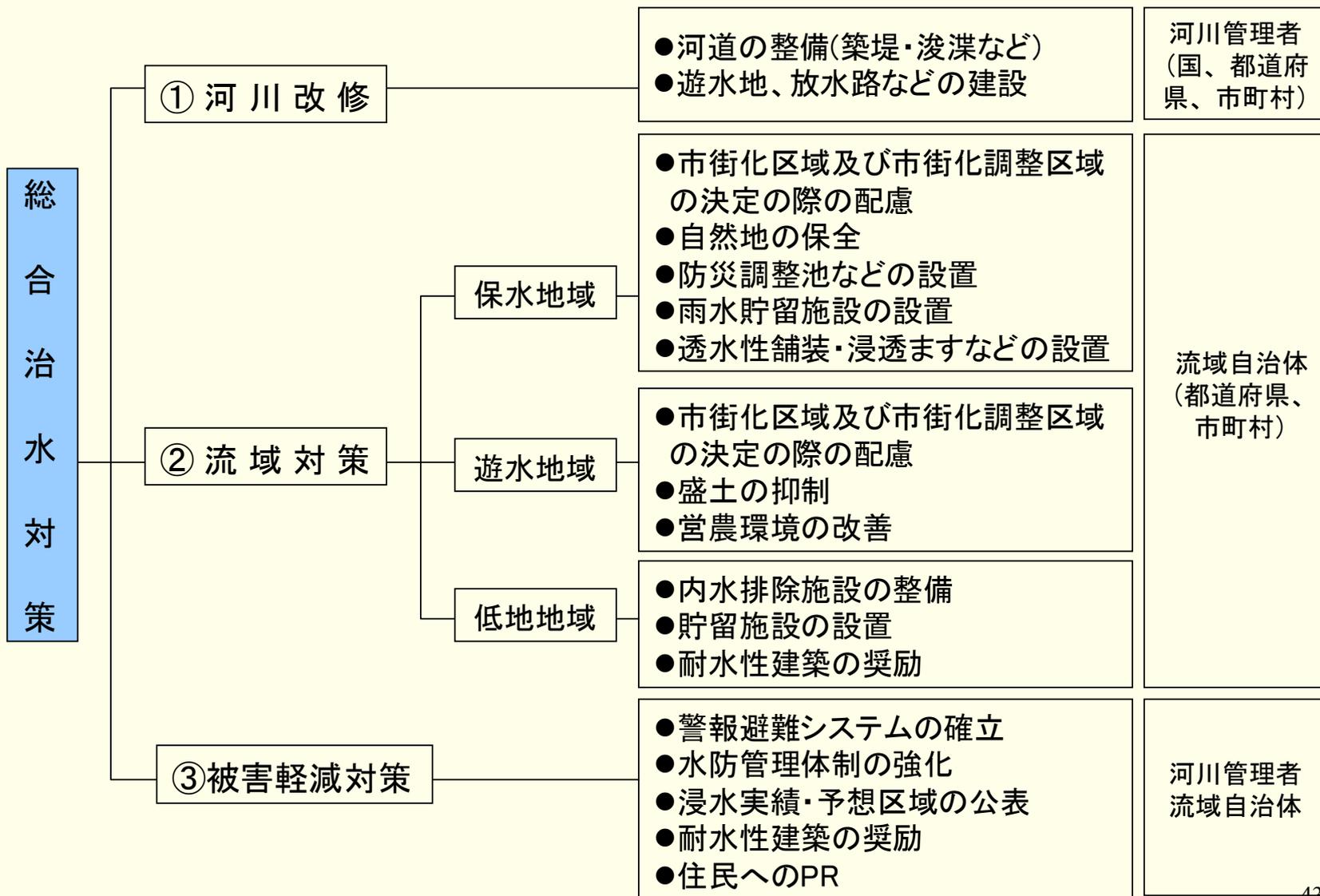
関係機関	協議会	幹事会
東京都	副知事	都市計画局長 住宅局長 建設局長
神奈川県	副知事	企画部長 農政部長 土木部長 建築部長
横浜市	助役	企画財政局長 緑政局長 都市計画局長 下水道局長 建築局長 道路局長
川崎市	助役	総合企画局長 環境局長 まちづくり局長 建設局長 経済局長
町田市	助役	企画部長 下水道部長 建設部長 都市緑政部長
国土交通省	○関東地方整備局長 関東地方整備局 河川部長	関東地方整備局 企画部長 ○河川部長 企画調査官 河川調査官 京浜河川事務所長

注：○印は座長

鶴見川の流量分担計画



2.2.6. 総合治水対策の体系・施策



①河川改修-1

河道の整備(築堤・浚渫など)

鶴見川



改修前

浚渫工事による
潮鶴橋付近の変貌

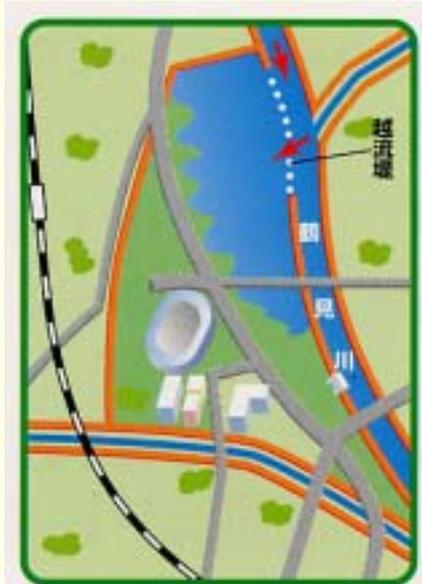
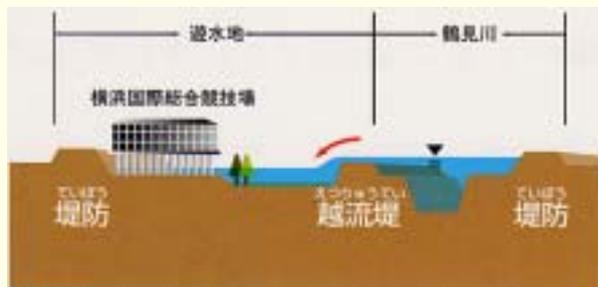


改修後

①河川改修-2

遊水地、放水路などの建設

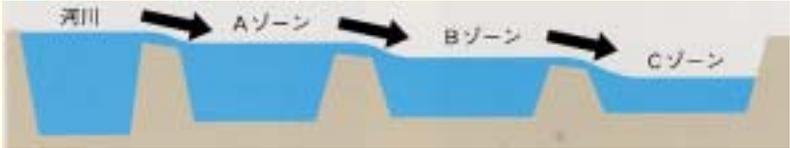
鶴見川多目的遊水地



①河川改修-3

遊水地、放水路などの建設

寝屋川治水緑地



平成11年8月

①河川改修-4

遊水地、放水路などの建設

寝屋川地下河川



神田川地下調節池



①河川改修-5

遊水地、放水路などの建設

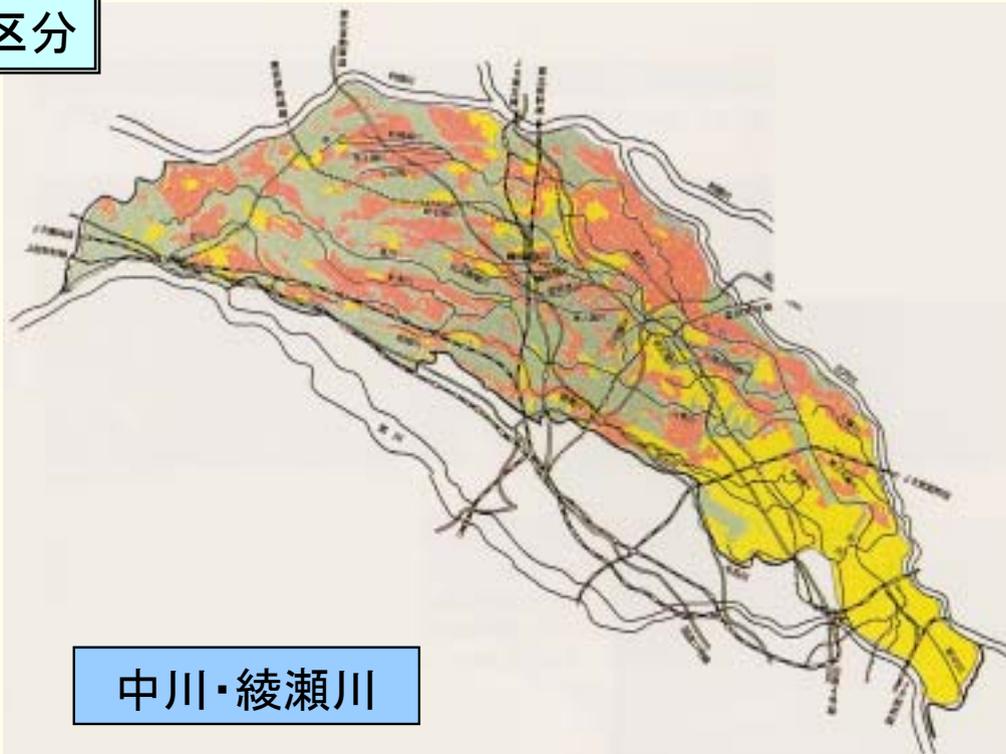
石狩川放水路(伏籠川)



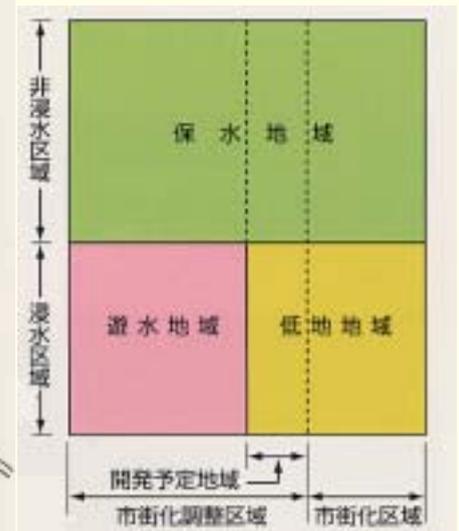
②流域対策-1

流域対策とは、従来持っていた流域の保水・遊水機能を回復し、流域に降った雨の河川への流出を抑制する対策です。
地域の特性に応じて、保水地域、遊水地域、低地地域の三地域に区分して、特性に合わせた対策を講じています。

三地域区分



中川・綾瀬川



②流域対策-2

三地域別の対策



保水地域

森林、雑木林などに降った雨は、その一部が地中に浸透し、水量を減らしながら、緩やかに川へと流れていきます。こうした働きを保水機能といい、保水機能をもっている地域を保水地域といいます。

- 市街化区域及び市街化調整区域の決定の際の配慮
- 自然地の保全
- 防災調節池などの設置
- 雨水貯留施設の設置
- 透水性舗装・浸透ますなどの設置



遊水地域

水田など、降った雨や、川および水路から流れてくる水を一時的に貯留する働きを遊水機能といいます。遊水地域は、雨水や川からの流水が一時的にとどまって、川の負担を軽くする、そうした機能を備えている地域です。

- 市街化区域及び市街化調整区域の決定の際の配慮
- 盛土の抑制
- 営農環境の改善



低地地域

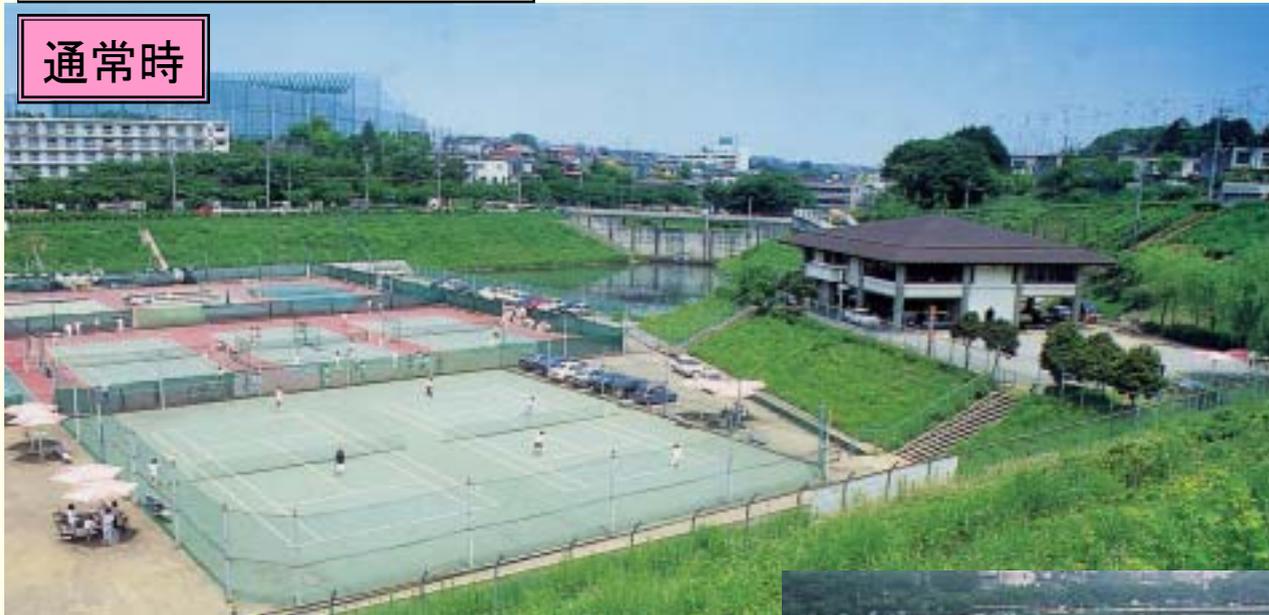
低地地域は、川沿いの低い市街地のような地域をいい、降雨が流域にとどまり、浸水となったり、川からの流水が流れ込み、浸水被害を引き起こす地域のことです。

- 内水排除施設の整備
- 貯留施設の設置
- 耐水性建築の奨励

②流域対策-3

防災調整池などの設置

通常時



霧が丘調節池
(鶴見川)

多目的施設例

洪水時



②流域対策-4

防災調整池などの設置

ビオトープ施設例

通常の調節池



佐味田川流域調節池
(大和川)



(鶴見川)

②流域対策-5

雨水貯留施設の設置

校庭貯留

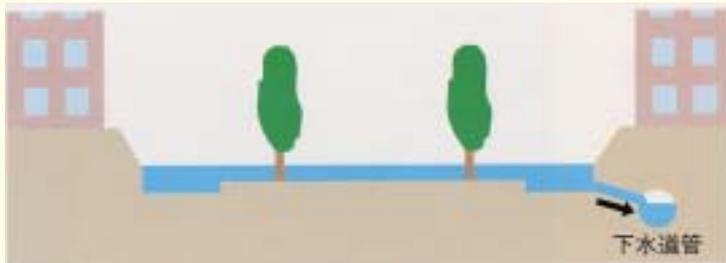


新河岸川

②流域対策-6

雨水貯留施設の設置

棟間貯留



大東市(寝屋川)



②流域対策-7

透水性舗装・浸透ますなどの設置

透水性舗装



透水性タイル舗装



東京都

②流域対策-8

透水性舗装・浸透ますなどの設置

雨水浸透施設



②流域対策-9

自然地の保全



▲森林は雨水を溜める働きを持っています



小山田緑地(鶴見川)

②流域対策-10

盛土の抑制



▲水田は雨水を遊水させる
自然の治水対策



横浜市(鶴見川)

③被害軽減対策-1

耐水性建築の奨励

鶴見川



横浜ラポール

▲鶴見川多目的遊水地の中に建っているため、洪水時にも施設の利用が可能なようにピロティ構造とした

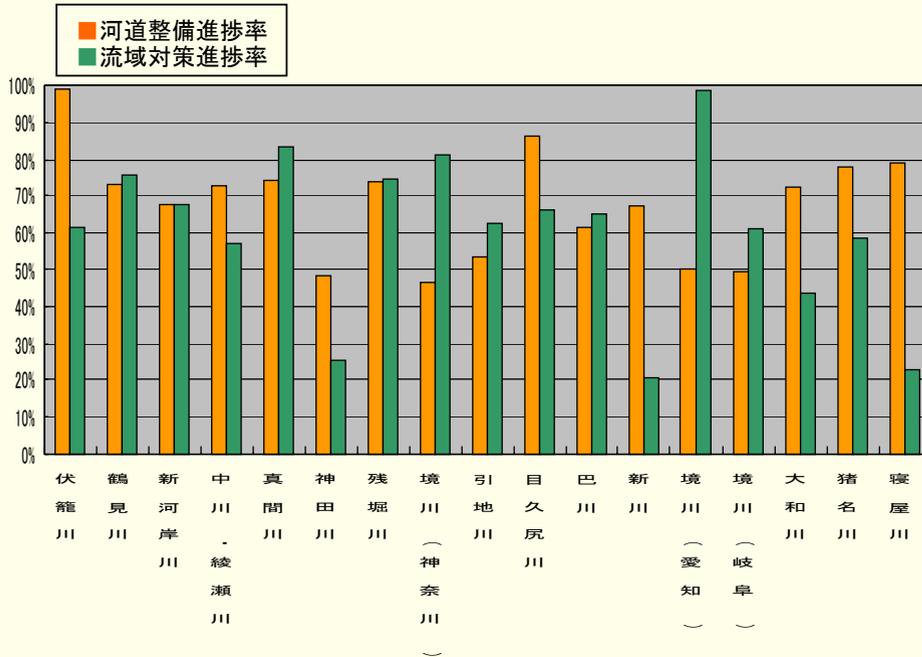


▲鶴見川の近くに住んでいるため過去の経験を生かし、洪水時に被害がないようピロティ構造とした

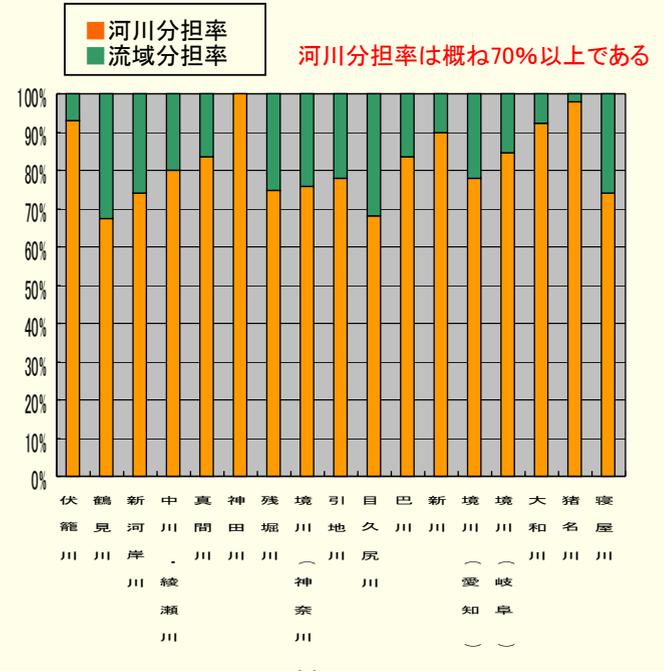
2.2.7. 総合治水対策の進捗状況

河道整備及び流域対策の進捗率は、概ね60～70%程度である

総合治水対策特定河川進捗状況(概ね50mm/hr対応)



総合治水対策特定河川の河川と流域の分担率

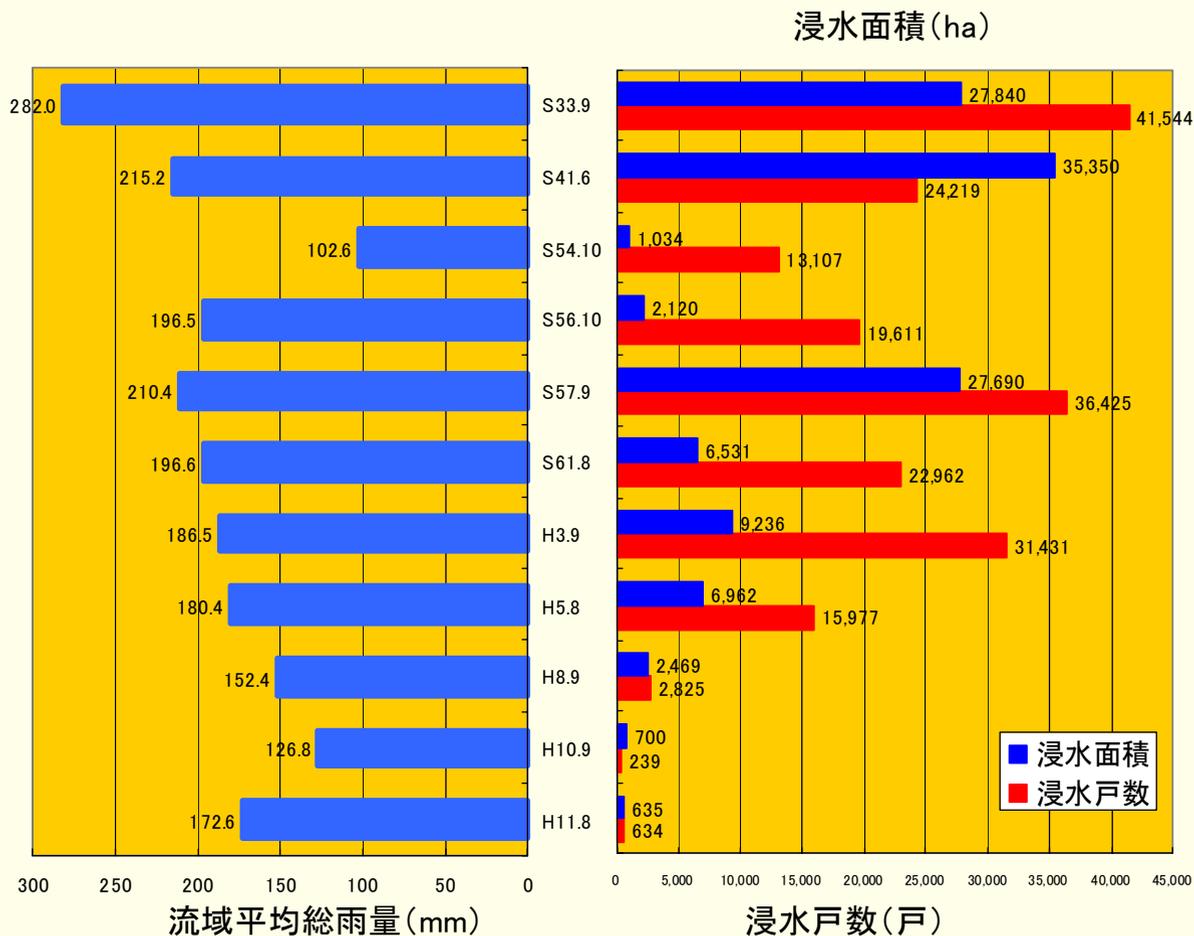


平成14年1月24日現在
国土交通省調べ

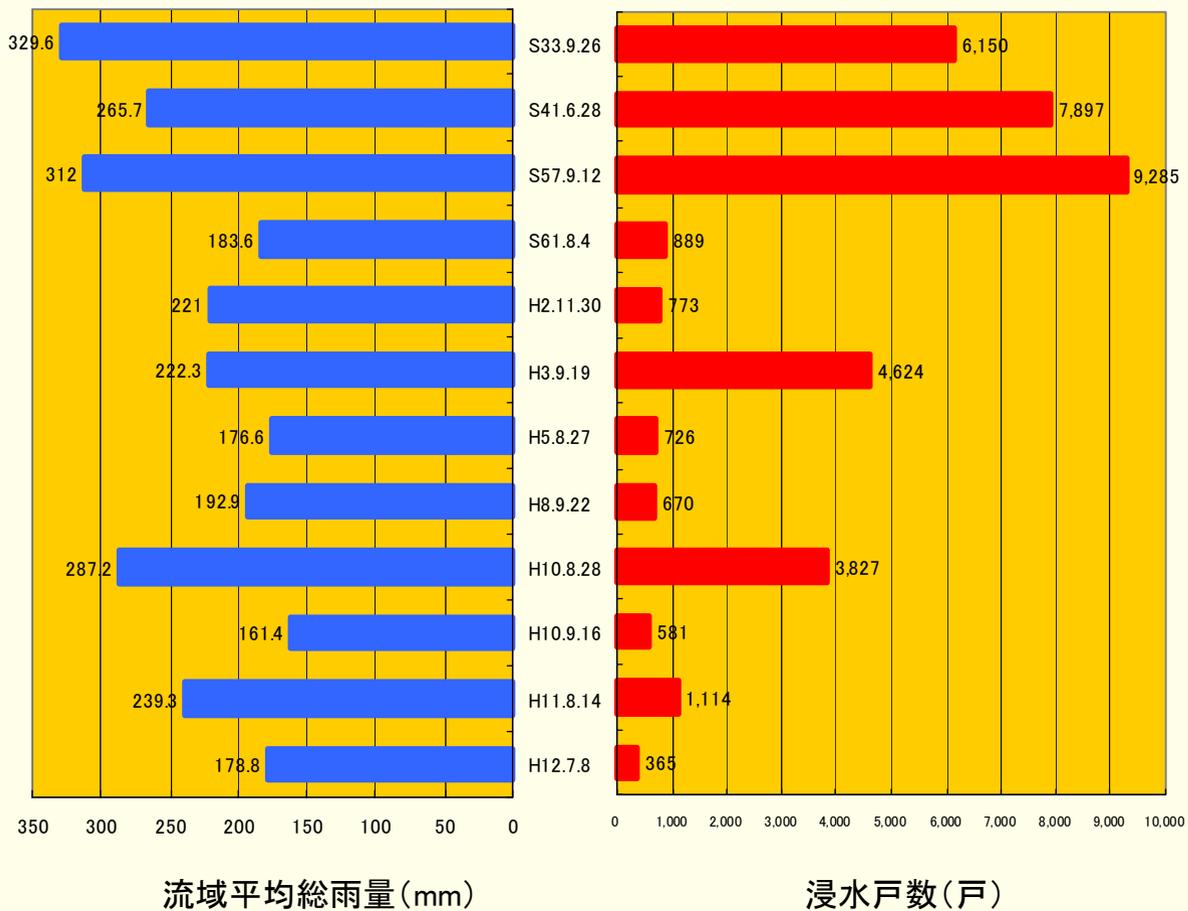
出典:流域整備計画

2.2.8. 過去に大水害の生じたのと同程度の降雨規模に対して、総合治水対策の進捗により近年では水害が著しく減少

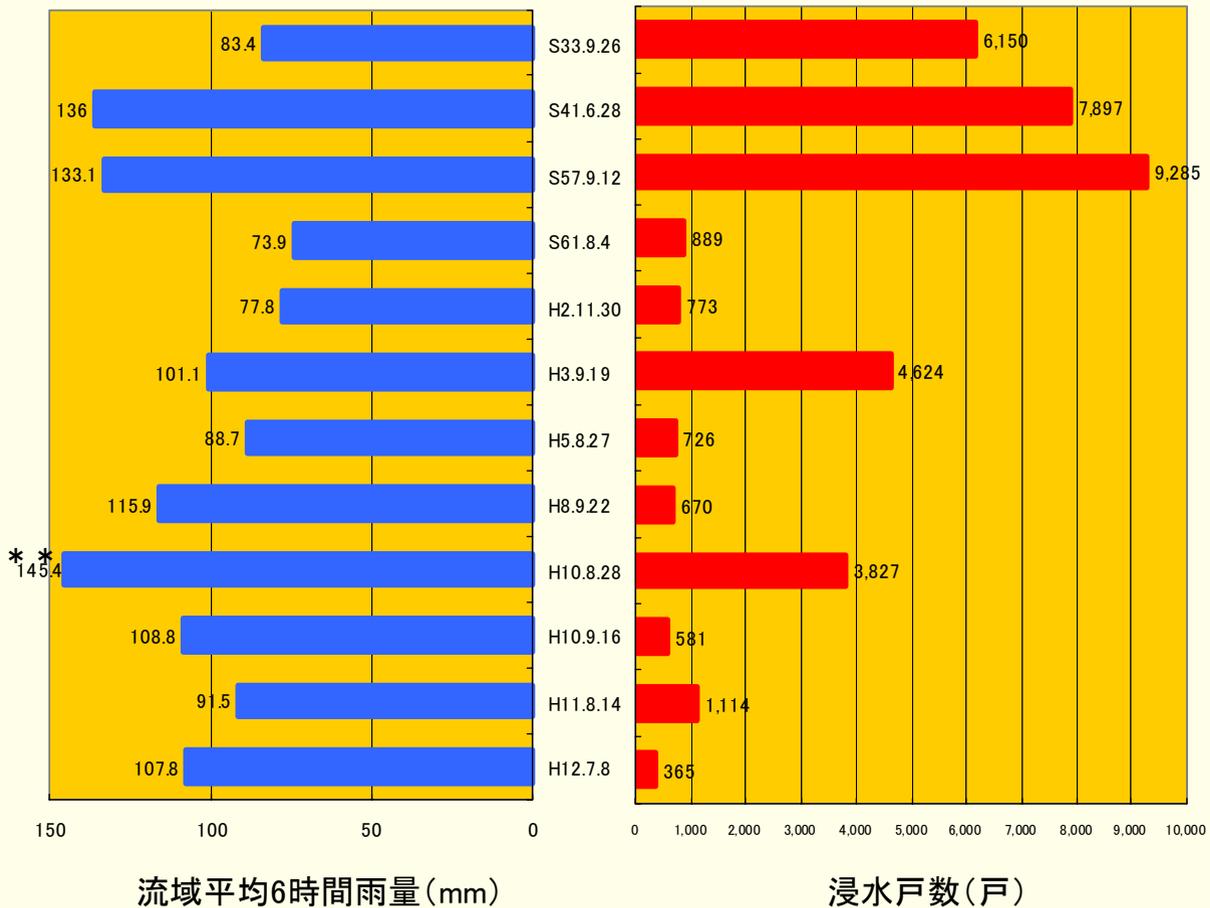
中川・綾瀬川



新河岸川



新河岸川



** 新河岸川放水路上流流域平均雨量を使用